＜授業づくりのポイント１＞

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

単元構想の３つの視点

単元のねらい
単元のねらい（学習内容や育てたい資質・能力）をとらえた単元構想

子どもや地域、学校の実態
単元展開や授業に生かせる**実態把握**

評価計画
目指す子どもの姿を明確にした評価計画

単元のねらいを明確にするには？

○　学習指導要領を基に単元のねらいを明確にとらえましょう。
　特に学年間の系統性や単元間の関連性等をしっかり把握することが大切です。
○　単元のねらいに迫るために、子どもが意欲的に取り組める順序やストーリー性のある単元計画を立てましょう。
○　単元や１単位時間のねらいに応じた適切な言語活動を設定しましょう。

実態を把握するには？

○　各種調査で学年、学級の状況や子どもたちの特性等をとらえましょう。
○　単元の学習内容に関するレディネステストやアンケート等で単元に関わる学習状況や既習事項をつかんで指導に生かしましょう。
○　普段の授業や生活から一人一人の興味・関心や学習への取組、つまずき等を予測しておきましょう。
○　地域の自然環境や社会的条件のよさを取り入れるようにしましょう。

目指す子どもの姿をとらえるには？

○　単元の学習内容を押さえた上で、学習後に子どもが何を身に付け、何ができるようになるのかを想定し、具体的に目指す子どもの姿をとらえましょう。
○　単元のねらいとの関連を図りながら、言語活動によって一人一人の子どもに身に付けさせたい力を明確にしましょう。
○　どんな場面で、どのような方法で評価するのか、あらかじめ設定しておきましょう。

ぜひ、参考にしてください！

・小中学校学習指導要領解説（文部科学省）

・評価規準の作成評価方法等の工夫改善のための参考資料
（国立教育政策研究所）

単元計画を立てるときのポイント！！

教材研究により教材を吟味し、学習内容・方法等を工夫し、単元を構想します。

【具体的な教材研究】
・教材の選定　　・教材の解釈、分析
・教材と身に付けさせたい力の関連
・単元での教材活用（何を、いつ、どこで）
・他教材との比較　等々

⇩

【ねらいに迫るための言語活動】
①　子どもの実態、身に付けさせたい力を明確にする。
②　身に付けさせたい力にふさわしい言語活動を選択する。
③　言語活動を課題解決・課題追究の過程に位置付ける。
④　思考や判断を促す発問や指示を具体化する。

学習内容の構造化と焦点化

学習内容の構造化と焦点化を図らないと、実際の授業では学習内容が絞りきれずに、教師主導になってしまいます。構造化と焦点化のヒントは、学習指導要領解説の中にあります。
例えば、中学校社会科（歴史的分野）では、ねらいが「○○、○○などを通して、ＡがＢであったことを理解させる」という学習の構造や焦点を明確にした表現になっています。ＡとＢに深く関わる内容ほど十分な時間をかけて学習活動を工夫しましょう。